

令和元年度

(2019 年度)

ダイバーシティ研究センター  
報告書

令和2年3月

ダイバーシティ研究センター

## 内容

1. ダイバーシティ研究センター .....	3
a. はじめに .....	3
b. 事業内容 .....	4
c. センター組織図 .....	5
d. ダイバーシティ研究センター沿革 .....	5
e. 運営委員会.....	7
f. 令和元年度構成員.....	7
2. 令和元年度活動報告.....	8
a. ダイバーシティ・インクルージョンに関する研究の実施.....	8
b. ダイバーシティ・インクルージョンの教育.....	9
c. 学内外におけるダイバーシティ・インクルージョンの推進 .....	10
3. 令和元年度研究業績一覧 .....	13

# 1. ダイバーシティ研究センター

## a. はじめに

日本社会は、性別、国籍、民族、年齢などの属性や背景にかかわらず、誰もがその能力を最大限に発揮し、活躍できる社会を目指している。同時に、各分野で国際的な競争力を高めるために、これまで以上の新たな着想や変革が求められている。これらの課題に応えるには、多数派のライフスタイルや価値観を標準とした従来の制度や組織運営を改め、多様な価値観や文化背景をもつ人々が、それぞれにその個性と能力を活かし、革新的発想を生み出せるような仕組みづくりが必要である。

わが国の多くの企業等では、ダイバーシティを、「ワークライフバランスや障がい者雇用のように、マイノリティとされる人たちも雇用し、働ける制度をつくること」と解釈するに留まっており、福利厚生や企業の社会的責任と見なす場合が（現状では）多い。実際、多様な働き方を可能にするための制度づくりすら十分ではないのが日本の現状であるため、この視点も重要ではあるが、本来目指すべき状態とは、属性だけでなく価値観や知識など深層の多様性にも着目し、その多様性を積極的に受け入れ、活かすことによって、組織の生産性や革新に結びつけることである。この理念と戦略を **Diversity and Inclusion** (以下、ダイバーシティ・インクルージョン) という。しかし、このようなダイバーシティ・インクルージョンの実現については、世界的に見ても、学術的に探究されるべき課題が多く残っている。そもそも属性の多様性は、生産性ではなく葛藤や対立を促進し、メンバーのモチベーションを低下させる可能性も大きい。「生産性や革新」と「葛藤や対立」を分ける要因やそれを生産的な方向に向けるための介入方法など、学術的に解明すべき点は多い。しかし、特に日本では、ジェンダーや移民問題など、個別のマイノリティ集団に関する研究者は多いものの、「一つの組織や集団内で多様な属性を持つ人々がどのように革新的な業績を生み出し得るか」を実証的に研究する研究者は相対的に少なく、決して研究の盛んな領域とは言えない。また、ダイバーシティ・インクルージョン研究は主に経営学の領域において「企業従業員のダイバーシティ」に限定した研究が行われており、大学や学術界におけるダイバーシティに注目した研究は見当たらない。

広島大学は、男女共同参画、障がい学生支援（アクセシビリティセンター）、及び特別支援教育の分野で、日本の中でも先進的な業績を挙げてきた。この業績を基盤として広島大学が進むべき次のステップは、ダイバーシティ・インクルージョン推進の拠点となること、及び「メンバーの多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的業績に結び付けられるような制度や風土を創出する知識とスキル」を備えた人材を育成することである。しかし、この課題は学内に現存する組織（男女共同参画推進室やアクセシビリティセンターなど）が扱える範囲を超えており、新たな学際的研究組織が必要である。このような経緯から、平成 28 年 4 月ダイバーシティ研究センターが設立された。

広島大学は、男女共同参画、障がい学生支援（アクセシビリティセンター）、特別支援教育の分野で、日本でも先進的な業績を挙げている。この業績を基盤として、広島大学が進むべき次のステップは、

- ① ダイバーシティ・インクルージョン推進の拠点となること（多様な価値観や文化背景、個性をもった人々がともに生きる社会で、一人一人の個性を活かし、その能力を発揮できるような組織・チームを管理運営するスキルやリーダーシップに関する研究を行う）
- ② そうしたスキルやリーダーシップ能力をもった人材を育成することである。

このステップのために、新たな学際的研究組織として、ダイバーシティ研究センターが設立された。

#### ダイバーシティ・アンド・インクルージョン

ダイバーシティ・アンド・インクルージョンとは日本では、ワークライフバランスや障がい者雇用のように、「マイノリティとされる人たちも雇用し働ける制度をつくること」を目指した動きが始まったばかりである。しかし本来は、単に「多様な人々が働ける環境を整える」ことに留まらず、価値観や知識など深層の多様性にも着目した上で、その多様性を積極的に受け入れ、活かすことによって、組織の生産性や革新に結びつけることを目指す必要がある。この理念と戦略を Diversity and Inclusion（ダイバーシティ・アンド・インクルージョン）と言う。

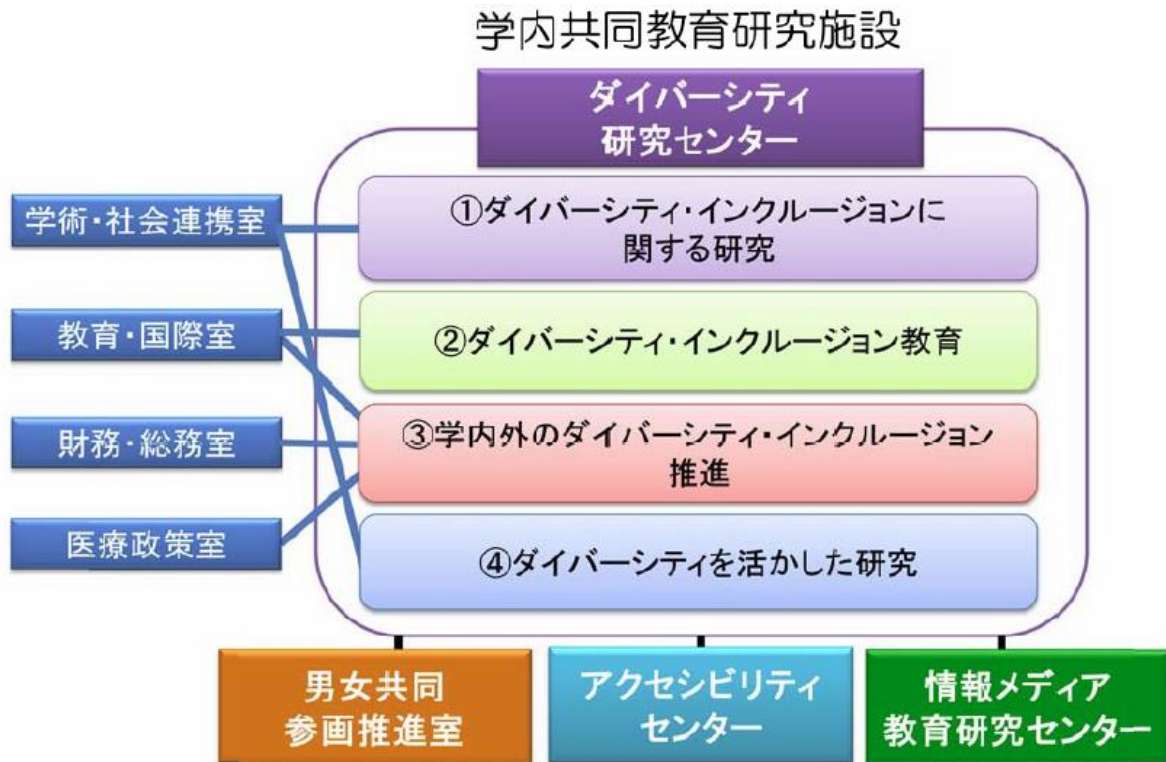
#### **b. 事業内容**

以下の内容を通じて、広島大学がダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進の拠点となること、及び「メンバーの多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的業績に結びつけられるような制度や風土を創出する知識とスキル」を備えた人材を育成することを目的とする。

##### <取り組み事業の概要>

1. ダイバーシティ・アンド・インクルージョンに関する学際的研究を行う
2. ダイバーシティ・アンド・インクルージョンのための知識とスキルを学生に教育する
3. 公開講座や企業向け研修など学内外におけるダイバーシティ・アンド・インクルージョンの推進と問題解決に貢献する
4. ダイバーシティを活かして創造的な研究を生み出す実践の場を提供する

c. センター組織図



d. ダイバーシティ研究センター沿革

- 平成 28 年 4 月 ダイバーシティ研究センター開設（センター長 坂田桐子教授）
- 平成 29 年 1 月 北梶陽子助教が着任
- 平成 29 年 5 月 大池真知子教授が着任
- 平成 29 年 7 月 関西大学酒井千絵准教授、高知大学佐藤洋子助教が連携研究者として加入
- 平成 29 年 9 月 高知工科大学上條良夫教授が連携研究者として加入
- 平成 30 年 4 月 大池真知子教授がセンター長に就任
- 平成 30 年 10 月 相馬敏彦准教授、中島健一郎准教授が協力教員として加入
- 平成 30 年 12 月 広島修道大学河口和也教授、大阪市立大学安達菜穂子研究員が連携研究者として加入
- 令和元年 8 月 櫻井里穂准教授、恒松直美准教授、デラコルダ川島ティンカ講師、長坂格准教授、中山亜紀子准教授が協力教員として加入
- 令和元年 9 月 山本幹雄准教授、坂本晶子助教、新本万里子教育研究推進員が協力教員として加入



e. 運営委員会

所 属	職 名	氏 名
ダイバーシティ研究センター	センター長 教授	大池 真知子
大学院総合科学研究科	教授	坂田 桐子
大学院文学研究科	教授	有元 伸子
大学院教育学研究科	教授	森永 康子
大学院社会科学研究科	准教授	ソ 徐 ウンジ 恩之
大学院理学研究科	准教授	DAS KAUSHIK
大学院先端物質科学研究科	教授	鈴木 孝至
大学院医系科学研究科	教授	藤井 万紀子
大学院工学研究科	准教授	駒口 健治
大学院統合生命科学研究科	准教授	加藤 亜記
大学院国際協力研究科	教授	片柳 真理
大学院法務研究科	教授	新井 誠
原爆放射線医科学研究所	准教授	仲 一仁
情報メディア教育研究センター (情報メディア教育研究センター長)	教授	西村 浩二
大学院教育学研究科 (アクセシビリティセンター長)	教授	服巻 豊

f. 令和元年度構成員

センター長 大池真知子 (教授：アフリカ文学)

専任教員 北梶陽子（助教：社会心理学）  
協力教員 坂田桐子（大学院総合科学研究科 教授：社会心理学）  
森永康子（大学院教育学研究科 教授：社会心理学）  
相馬敏彦（大学院社会科学研究科 准教授：社会心理学）  
中島健一郎（大学院教育学研究科 准教授：社会心理学）  
服巻 豊（大学院教育学研究科 教授：臨床心理学）  
片柳真理（大学院国際協力研究科 教授：国際関係論）  
相原玲二（情報メディア教育研究センター 教授：副学長）  
相田美砂子（大学院理学研究科 教授：理事・副学長）  
河本尚枝（大学院総合科学研究科 准教授：福祉社会学）  
櫻井里穂（教育開発国際協力研究センター 准教授：比較教育学）  
恒松直美（森戸国際高等教育学院 准教授：国際教育、教育社会学、ジェンダー研究）

デラコルダ川島ティンカ（大学院教育学研究科 講師：宗教社会学）  
長坂格（大学院総合科学研究科 准教授：文化人類学）  
中山亜紀子（大学院教育学研究科 准教授：日本語教育）  
山本幹雄（アクセシビリティセンター 准教授：物性物理学、教育アクセシビリティ学、アクセシビリティ支援学）  
坂本晶子（アクセシビリティセンター 助教：物性物理学、教育アクセシビリティ学、アクセシビリティ支援学）  
新本万里子（アクセシビリティセンター 教育研究推進員：文化人類学、アクセシビリティ支援学）  
中村平（大学院文学研究科 教授）

連携研究者 佐藤陽子（高知大学 助教：社会学）  
酒井千絵（関西大学 准教授：社会学）  
上條良夫（高知工科大学 教授：経済学）  
河口和也（広島修道大学 教授：社会学）  
安達菜穂子（大阪市立大学 都市文化研究センター研究員：社会心理学）

## 2. 令和元年度活動報告

### a. ダイバーシティ・インクルージョンに関する研究の実施

#### (1) 研究実施体制の展開

- 令和元年 8 月 8 日に櫻井里穂准教授（教育開発国際協力研究センター、比較教育学）、恒松直美准教授（森戸国際高等教育学院、国際教育・教育社会学・ジェンダー研究）、長坂格准教授（大学院総合科学研究科、文化人類学）が協力教員として参加し、協力体制を構築した。
- 令和元年 8 月 9 日に河本尚枝准教授（大学院総合科学研究科、福祉社会学）が協力教員として参



加し、協力体制を構築した。

- 令和元年 8 月 13 日にデラコルダ川島ティンカ講師（大学院教育学研究科、宗教社会学）が協力教員として参加し、協力体制を構築した。
  - 令和元年 8 月 23 日に中山亜紀子准教授（大学院教育学研究科、日本語教育）が協力教員として参加し、協力体制を構築した。
  - 令和元年 9 月 19 日に山本幹雄准教授（アクセシビリティセンター、物性物理学・教育アクセシビリティ学・アクセシビリティ支援学）、坂本晶子助教（アクセシビリティセンター、物性物理学・教育アクセシビリティ学・アクセシビリティ支援学）、新本万里子教育研究推進員（アクセシビリティセンター、文化人類学・アクセシビリティ支援学）が協力教員として参加し、協力体制を構築した。
  - 令和二年 3 月に中村平教授（大学院文学研究科）が協力教員として参加し、協力体制を構築した。
- 
- 2019 年 3 月に、県立広島大学と広島大学の教員で「ひろしま多文化研究会」を立ち上げ、2019 年度には研究会を 5 回実施した。研究会には県の職員、学生、活動家も参加し、ネットワークを構築した。
  - ひろしま多文化研究会のメンバーの一部で、多文化共生のための教育プログラム「CEDAR 広島」の企画を始めた。CEDAR（Communities Engaging with Differences and Religion）は、多文化共生のための教育プログラムを実施するアメリカの団体（<https://www.cedarnetwork.org/>）である。センター長が 8 月に長崎での 3 日間のプログラム、ならびに 12 月にウガンダでの 2 週間のプログラムに参加して CEDAR との連携を深め、長崎の代表とも連携して広島でプログラムを企画している。ウガンダのプログラムには、デラコルダ講師（協力教員）も参加した。2020 年の 3 月に CEDAR 代表（アダム・セリグマン教授・ボストン大学）を招いて打ち合わせを行う予定だったが、コロナにより延期した。しかし協力教員を中心に、研究会や視察を実施して、準備を進めている。
  - 今後、センターが学内外の各所と連携を進めるに当たって、広報が重要性を増す。そのため、独自サイトの構築に着手した。

## (2) 企業との共同研究

平成 29 年度採択の科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の事業の一環として、組織のダイバーシティ実現を目的とし、共同実施機関やメンバー機関の企業と共同で調査を進めた。

## (3) その他研究活動

「3. 令和元年度研究業績一覧」（後述）にあるように、各研究者が独自の研究課題を遂行した。

### b. ダイバーシティ・インクルージョンの教育

- (1) 教養教育平和科目「ひろしま平和共生リーダー概論」（COC 事業関連）でセンターが 1 コマ担当し、大池真知子教授が実施した。

- (2) 特定プログラム「ダイバーシティ特定プログラム」開設準備  
令和2年度開設に向け、授業科目の提供依頼、および、新規科目「ダイバーシティ概論」「ダイバーシティ演習」の準備を進めた。
- (3) 大学院共通科目「ダイバーシティの理解」を担当  
令和元年度より開設された大学院共通科目の持続可能な発展科目群に1単位分の講義として実施した。ワーキング・グループに参加し、令和2年度以降の準備を進めた。
- (4) 教養的教育科目「大学教育入門」(全学必修) 開設準備  
令和2年度開講に向け、ワーキング・グループに参加し、準備を進めた。
- (5) その他のダイバーシティ教育の実施  
教養教育科目「ジェンダーと社会」、「平和を考える」、総合科学部専門科目「ジェンダー学1, 2」、総合科学研究科専門科目「異文化理解」、専門的教育科目「社会行動論」などの授業を通じて、ダイバーシティについての教育を実施した。

### c. 学内外におけるダイバーシティ・インクルージョンの推進

- (1) 公開講座・セミナー・イベントの実施
- ・ 平成31年4月7日(日) 12:30-18:00 「今、なぜ私たちにはダイアログが必要なのか？」(広島大学東千田キャンパスにて、講師: Tom Erik Arnkil (トム・エーリック・アーンキル) 教授、Tarja Heino (タルヤ・ヘイノ) 教授)を広島大学インキュベーション研究拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の理論と実践のための研究拠点」と共同主催した。
  - ・ 令和元年6月7日(金) 18:30-20:30 「Sex-Education Party in Ripple」(西条下見のイベントスペース「Ripple」にて、学生サークル Planet Inclusion 主催) の実施を後援した。
  - ・ 令和元年6月19日(水) 12:50~14:20 「『トランスジェンダーの物語』 ジェシカ・リンさんを迎えて」(広島大学東広島キャンパスにて、講師: Jessica Lynn (ジェシカ・リン))
  - ・ 令和元年7月1日(月) から5日(金) 8:30-21:00 「LGBT+漫画展—漫画が描くいろいろな『性』」(広島大学西図書館ロビーにて、学生サークル planet inclusion 主催) 実施に協力した。
  - ・ 令和元年7月5日(金) 18:15-19:00 「性にかんする漫画のビブリオバトル」(広島大学西第一福利会館内 space one・one caféにて、学生サークル planet inclusion 主催) 実施に協力した。
  - ・ 令和元年7月16日(火)・17日(水) 「Inclusive Leadership Development and Transformative Collaboration in Culturally Diverse Environment 多文化環境におけるリーダーシップ育成と変革的協同」(広島大学東広島キャンパスにて、講師: Dr. Helen Fagan, Dr. Naomi Tsunematsu) を広島大学インキュベーション研究拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の理論と実践のための研究拠点」と共同主催した。
  - ・ 令和元年10月28日(月) から11月8日(金) 8:30-21:00 「第2回LGBT+漫画展」(広島大学西図書館ロビーにて、学生サークル planet inclusion 主催) 実施に協力した。

- ・ 令和元年 11 月 3 日（日）・4 日（月）10:00-17:00 「ジェンダーとセクシュアリティについて考える」（広島大学東広島キャンパス総合科学部 K 棟 207 にて、学生サークル planet inclusion 主催）実施に協力した。
- ・ 令和元年 12 月 6 日（金）13:10-17:00 「メキシコってどんな国？ -メキシコにおける多様性（ダイバーシティ）とは-」（広島大学中央図書館ライブラリーホールにて、広島大学ダイバーシティインクルージョン拠点主催）を共催した。
- ・ 令和 2 年 1 月 15 日（水）16:20-17:50 「ここいろ hiroshima トークショー@広大」（広島大学東広島キャンパス福山通運小丸賑わいパビリオンにて）を、学生サークル planet inclusion と共同主催した。
- ・ 令和 2 年 1 月 24 日（金）16:20-18:00 「性の多様性について知ろう 第 2 弾 LGBTQ+ドキュメンタリー上映会『私はワタシ』（広島大学東広島キャンパス総合科学部 K 棟 306 にて）を、学生サークル planet inclusion と共同主催した。
- ・ 令和 2 年 1 月 20 日（月）から 2 月 10 日（月） 図書展示「性の多様性を知ろう」（広島大学中央図書館・西図書館にて）を主催した。
- ・ 令和 2 年 3 月 24 日（火）から 29 日（日） 「MIX UP 広島 表現の自由展」（絵画、映像、写真の展示）（gallery G にて、MIX UP 広島実行委員会主催）に、大池真知子センター長がアドバイザーとして、連携研究者の河口和也教授が実行委員として協力した。当初は「MIX UP 広島 マイノリティな 6 days」（絵画、映画、トークショー、講演、パネルディスカッションなどのさまざまなイベント）として大規模に実施する予定だったが、COVID-19 により開催を延期し、縮小して実施した。

## (2) 企業・自治体・教育機関での研修や講演

- ・ 令和元年 10 月 8 日 広島県庁三次庁舎にて、大池真知子教授が「ダイバーシティ&インクルージョンの理解——性を例に」の講演を行った。
- ・ 令和元年 10 月 15 日 広島県庁庄原庁舎にて、大池真知子教授が「ダイバーシティ&インクルージョンの理解——性を例に」の講演を行った。
- ・ 令和元年 12 月 12 日 広島県世羅郡世羅町役場にて、大池真知子教授が「女性の人権と男女共同参画」の講演を行った。
- ・ 令和元年 12 月 19 日 広島県立総合技術研究所 農業技術センターにて、北梶陽子助教が「ダイバーシティについて」の講演を行った。

## (3) 広島大学でのダイバーシティ推進のための取り組み

- ・ 平成 31 年 1 月に発足した「セクシュアリティの多様性検討ワーキング」の座長を大池真知子教授が務め、当センター、アクセシビリティセンター、保健管理センター、ハラスメント相談室の協力のもと、広島大学における「性の多様性に関する理念と対応ガイドライン——LGBT 等の学生の修学のために」を制定した。令和 2 年 4 月より施行。
- ・ 上記ワーキングを「性の多様性についてのパンフレット編集委員会」として再組織し、学生向けの啓発パンフレット「性の多様性を知ろう——LGBT ってなに？」（英語版：Introduction to Diversity in Gender and Sexuality—Do You Know LGBT?）を作成。
- ・ 広島大学の学部 1 年生（夜間主コースなど一部を除く）と全教職員を対象にして、2019 年 5 月

～6月、2020年1月～2月の2回、LGBT等に関するアンケート調査を実施。性の多様性に関するイベントやガイドラインの認知度が、LGBT等に対する態度にどのような影響を与えたかについて。

(4) 企業との共同研究

平成29年度採択の科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の事業の一環として、組織のダイバーシティ実現を目的とし、共同実施機関やメンバー機関の企業と共同で調査を進めた。

(5) その他研究活動

「3. 令和元年度研究業績一覧」（後述）にあるように、各研究者が独自の研究課題を遂行した。

### 3. 令和元年度研究業績一覧

#### 論文・著書

- 森永康子・東 智美・糸賀日奈子・曾我部里紗・上村冴子 (in press), Power とシステム正当化—van der Toorn et al.(2015)の追試—, 広島大学心理学研究, 19.
- 清末有紀・森永康子 (in press), 男性上司から女性部下への評価—地位脅威とジェンダー脅威—, 広島大学心理学研究, 19.
- Wei Wang, Kiriko Sakata, Asuka Komiya, Yongxin Li (accepted), What Makes Employees' Work So Stressful? Effects of Vertical Leadership and Horizontal Management on Employees' Stress, *Frontiers in Psychology*, DOI: 10.3389/fpsyg.2020.00340.
- 大竹文雄・坂田 桐子・松尾 佑太 (2020), 豪雨災害時の早期避難促進ナッジ, *RIETI Discussion Paper Series*, 20-J-015
- 村田由香・坂田桐子 (in press), 中堅ジェネラリスト看護師のリーダーシップ尺度の信頼性・妥当性の検討, *人間科学研究*
- 松本千香・坂田桐子 (in press), 災害時におけるペット対策の規定因の検討：ペットとの心理的関係性の観点から, *人間科学研究*
- 坂田桐子 (2019), 女性の昇進を阻む心理的・社会的要因 大沢真知子編著 なぜ女性管理職は少ないのか—女性の昇進を妨げる要因を考える— 青弓社
- 山口文恵・坂田桐子 (2019), 福島第一原子力発電所事故後の除染事業における手続き的公正感に寄与する要因の検討, *日本リスク研究学会誌* 28(2), 95-106, DOI: <https://doi.org/10.11447/sraj.28.95>.
- 恒松直美 (2019), 「多国籍留学生が体験学習から捉えた日本社会との接触における課題」, 『留学生教育』, 24 号, pp.11-21, DOI: ISSN 1345-2398.
- 河本尚枝 (2019), (翻訳・単訳) 地図で読み解く日本統治下の台湾, 創元社, 大阪市
- 佐藤洋子 (2020), 女性活躍推進を進める企業で女性が管理職になりたがらないのはなぜか——小売業 X 社における管理職志向のない女性正社員の語りから, *労働社会学研究*, 21.
- 長坂格 (2019), 書評「堀江未央『娘たちのいない村—ヨメ不足の連鎖をめぐる雲南ラフの民族誌』」, *東南アジア研究*, 57(1), 88-91, DOI: 10.20495/tak.57.1\_88.
- 長坂格 (印刷中), 書評「細田尚美『幸運を探すフィリピンの移民たち：冒険・犠牲・祝福の民族誌』」, *アジア・アフリカ地域研究*, 19(2).
- 安藤香織・大沼進・安達菜穂子・柿本敏克・加藤潤三 (2019), 環境配慮行動における二者間の相互作用の検討：ペア・データ調査から, *実験社会心理学研究*, 59, 1-13, DOI: 10.2130/jjesp.1816.
- Ando, K., Sugiura, J., Ohnuma, S., Kim-Pong, T., Hübner, G. & Adachi, N. (2019), Persuasion game: Cross cultural comparison, *Simulation & Gaming*, 50, 532-555, DOI: 10.1177/1046878119880236.
- 新本万里子・山本幹雄・坂本晶子・大池真知子・山崎恵里・服巻豊・吉原正治 (2020), 多様な学生の学内トイレの利用に関する基礎的環境整備の検討—広島大学の事例から—, *総合保健科学*.
- 新本万里子 (2019), パプアニューギニアにおける月経衛生対処に関わる教育と女子生徒たちの実践—月経のケガレと羞恥心をめぐって—, *国際開発研究*, 28 (2), 35-49, DOI: 10.32204/jids.28.2\_35.
- 櫻井里穂 2019 「インクルーシブ教育の理念を再考—サラマンカ宣言の精神に関連して—ブータンと日

本の小・中学校調査から一」福祉労働 2019,03 (査読あり)

Sakurai, Riho (2020) "Inclusive Education in Bhutan" CICE (UNESCO) Policy Brief. P.52-62. CICE.  
Kitakaji Yoko, Ohnuma Susumu (2019.10). The detrimental effects of punishment and reward on cooperation in the Industrial Waste Illegal Dumping Game. *Simulation & Gaming*, 50(5), 509-531. DOI: 10.1177/1046878119880239

Keishiro Hara, Yoko Kitakaji, Hiroaki Sugino, Ritsuji Yoshioka, Hiroyuki Takeda, Yoichi Hizen, Tatsuyoshi Saijo, Effects of Experiencing the Role of Imaginary Future Generations in Decision-Making - a Case Study of Participatory Deliberation in a Japanese Town -, *Research Institute of Economy, Trade and Industry Discussion Paper (English)*, December 2019 19-E-104

大池真知子 (2020) 1980年代から2010年代のアフリカの性の研究の潮流——フェミニズムとの関わりを中心に, *黒人研究*, 89号 86-106

## 学会発表

上司から女性部下への評価—地位脅威とジェンダー脅威—, 清末有紀・森永康子, 日本社会心理学会第60回大会, 2019年11月09日, 通常, 日本語

男性役割における多元的無知, 董星宇・森永康子, 中国四国心理学会第75回大会, 2019年10月20日, 通常, 日本語

傍観者によるネットいじめの被害者, 加害者非難—公正世界信念の下位概念の影響に注目して—, 野中りょう・森永康子, 中国四国心理学会第75回大会学部生研究発表, 2019年10月19日, 通常, 日本語

Powerless はシステム正当化を高めるのか?—van der Toorn et al.(2015)の追試的検討—, 東智美・糸賀日奈子・曾我部里紗・上村冴子・森永康子, 中国四国心理学会第75回大会学部生研究発表, 2019年10月19日, 通常, 日本語

日本教育心理学会研究委員会企画シンポジウム「今, 差別を考える—社会心理学からの提言—」企画・司会, 森永康子, 日本教育心理学会第61回総会, 2019年09月15日, 通常, 日本語

シンポジウム「科学教育とジェンダー平等—SDGs4&5の実現を目指して—」話題提供「ジェンダー・ステレオタイプと科学教育: 社会心理学的研究からの示唆」, 森永康子, 日本科学教育学会第43回年会, 2019年08月, 招待, 日本語

Japanese Women's Well-being in Relation to the Economic Gender Gap: A Beneficial Function of System Justification and Benevolent Sexism, Morinaga, Y., & Fukudome, K., *The 13th Biennial Asian Association of Social Psychology Conference*, 2019年07月, 通常, 英語, Taipei, Taiwan

Women's Negative Attitudes Toward Female Subgroups, Qin, B., & Morinaga, Y., *The 13th Biennial Asian Association of Social Psychology Conference*, 2019年07月, 通常, 英語, Taipei, Taiwan

Evaluations of Female Subordinates by Male Superiors Who Experience Gender and Status Threats, Kiyosue, Y., & Morinaga, Y., *The 13th Biennial Asian Association of Social Psychology Conference*, 2019年07月, 通常, 英語, Taipei, Taiwan

Sakurai, Riho (2020). "Reexamination of "Best Practices" in Inclusive Education for Children with Disabilities: Bhutan Revisited. Presented at the CIES Annual Meeting on March 23, 2020, Miami, USA. (Virtual Conference due to Coronavirus Incidence).

Sakurai, Riho (2019). "Dynamics of Inclusive Education: Japanese teachers' Perspectives" (accepted

- for the presentation at the World Education Research Association Focal Meeting in Tokyo 10th Anniversary). August 5-8, 2019. Tokyo University & Gakushuin University, Tokyo, JAPAN.
- Sakurai, Riho (2019). "Education for Foreign-Born Students at Japanese Schools — Inclusive or Collective? A case study" Presented at CIES 2019 Conference. April 15, 2019. San Francisco, USA.
- Sakata, K. & Ma, M., Components of inclusion in workplace: Uniqueness or authenticity?, 13th Asian Association of Social Psychology Conference (Taipei, Academia Sinica, 2019/7/11)[poster]
- Aiba, M. & Sakata, K., Relationship Between Schadenfreude and Social Comparison, 13th Asian Association of Social Psychology Conference (Taipei, Academia Sinica, 2019/7/11)[poster]
- Sato, H., Komiya, A., & Sakata, K., Memory of Counterintuitive Content with Enhanced Credibility, 13th Asian Association of Social Psychology Conference (Taipei, Academia Sinica, 2019/7/11)[poster]
- Ibaraki, R. & Sakata, K., Are Moral Foundations Used for Decision-making in Moral Conflict? An Examination Using Free Description, 13th Asian Association of Social Psychology Conference (Taipei, Academia Sinica, 2019/7/12)[poster]
- 坂田桐子・馬萌, 職場における包摂性が集団生産性に及ぼす影響, 日本社会心理学会第 60 回大会 (東京, 立正大学, 2019/11/9)[ポスター]
- "服部典利子・坂田桐子, 開放性がダイバーシティ・イデオロギーに与える影響 — 視点取得の媒介効果の検討 —, 日本社会心理学会第 60 回大会 (東京, 立正大学, 2019/11/9)[ポスター]"
- "加藤聖子・坂田桐子, 災害時における被災者非難の生起メカニズムの検討 — 公正世界信念の機能に注目して —, 日本社会心理学会第 60 回大会 (東京, 立正大学, 2019/11/9)[ポスター]"
- 坂田桐子・小宮あすか・有賀敦紀, 平成 30 年 7 月豪雨災害における避難行動の規定因の研究, 日本グループ・ダイナミックス学会第 66 回大会 (富山, 富山大学, 2019/10/19)[ポスター]
- Tsunematsu, Naomi, "Independence and Interdependence of Culturally Diverse Students: Autonomy and Empowerment through Experiential Learning to Cooperate with Local Society in Japan", Asian Conference on Education, IAFOR (International Academic Forum) (Tokyo, Toshi Center Hotel, Tokyo, November 3, 2019)[口頭]
- Tsunematsu, Naomi, "Reflections on Study Abroad Experiences in Japan: Cultural Factors and Differences among International Students", 55th Japan Comparative Education Society Conference. Research Presentation, 「日本比較教育学会 第 55 回大会」 (Tokyo, 東京外国語大学, Tokyo University of Foreign Studies, June 9, 2019)[口頭]
- 佐藤洋子, 地域資源を生かした女性起業の展開と従業員の職業意識 — 北海道十勝を事例として —, 地域社会学会第 44 回大会 (兵庫県神戸市, 神戸学院大学, 20190511)[口頭]
- 佐藤洋子, 林業における「女の仕事」の生成と受容, 日本労働社会学会第 31 回大会 (埼玉県所沢市, 早稲田大学, 20191102)[口頭]
- 長坂格, 「再生産労働の国際分業における男性移住者の移住経験: イタリアのフィリピン人男性移住家事労働者の事例から」, 第 24 回フィリピン研究会全国フォーラム (名古屋, 名古屋大学, 2019/6/23)[口頭]
- Nagasaka, Itaru, Migrant Men in Global Care Chain: Migration Routes and Reconstruction of

Identities among Filipino Male Migrants in Italy and the UK, 7th Trans Pacific International Conference (Busan, Pukyong National University, 2020/2/20)[口頭 (招待発表)]

Adachi, N., & Ikegami, T., Can norms of reproduction ever justify homophobia under egalitarian conditions?, The 13th Bennial Asian Association of Social Psychology Conference (台湾, Academia Sinica, 2019/7/11)[ポスター]

Ando, K., Ohnuma, S., Sugiura, J., Hubner, G., Hui, L. D., & Adachi, N., The Effect of a Message on the Intention to Buy Environmental Products: A Comparison of Germany, China, and Japan., The 13th Bennial Asian Association of Social Psychology Conference (台湾, Academia Sinica, 2019/7/12)[ポスター]

Ando, K., Sugiura, J., Adachi, N., Ohnuma, S., Hübner, G. & Kim-Pong, T., Persuasion game: Cross cultural comparison., 50th Anniversary International Simulation and Gaming Association Conference (Poland, Kozminski University, 2019/8/27)[口頭]

杉浦淳吉・安藤香織・大沼進・Gundula Hübner・Kim-Pong, Tam・安達菜穂子, 説得納得ゲームにおける説得内容の国際比較, 日本グループ・ダイナミクス学会第 66 回大会 (富山, 富山大学, 2019/10/20)[ポスター]

安藤香織・杉浦淳吉・大沼進・Kim-Pong Tam・Gundula Hübner・安達菜穂子, 説得納得ゲームの効果の国際比較, 日本社会心理学会第 60 回大会 (東京都, 立正大学, 2019/11/9)[口頭]

安達菜穂子・池上知子, 平等主義的状况下におけるホモフォビアの表出, 日本社会心理学会第 60 回大会 (東京都, 立正大学, 2019/11/9)[ポスター]

山本幹雄・坂本晶子・新本万里子, 合理的配慮のコモディティ化と支援の最適化, 全国高等教育障害学生支援協議会 (AHEAD JAPAN) 第 5 回大会 (東京, 国立オリンピック記念青少年総合センター, 2019/6/29)[ポスター]

新本万里子, パプアニューギニアにおける月経衛生対処に関わる教育と女子生徒たちの実践—月経のケガレと羞恥心をめぐって—, 国際開発学会&人間の安全保障学会 2019 共催大会 (東京, 東京大学駒場キャンパス, 2019/11/17)[口頭]

新本万里子, パプアニューギニアにおける月経をめぐる言説と女性たちの実践—保健教育を受けた世代に焦点をあてて—, 日本文化人類学会第 53 回研究大会 (宮城, 東北大学, 2019/6/2)[口頭]

新本万里子, サゴデンプン抽出作業の役割分担—パプアニューギニア・アベラム社会の事例から—, サゴヤシ学会第 28 回講演会 (東京, 立教大学, 2019/5/25)[口頭]

Kitakaji, Y. & Inaba, M. (2019.6.4), The effect of punishment on cooperation in the nested social dilemma, the 18th International Conference on Social Dilemmas. (Arizona, United States)

北梶陽子・稲葉美里. (2019.11.9). 小集団の規範が入れ子型社会的ジレンマにおける協力に与える影響, 日本社会心理学会第 60 回大会, (立正大学, 東京都品川区) [poster]

大池真知子, アフリカのフェミニストが語るアフリカの女の性—性暴力の被害者から快樂の主体へ, 黒人研究学会第 65 回年次大会 (京都, 立命館大学衣笠キャンパス, 2019/6/22) [口頭] シンポジウム「性暴力の被害者／サバイバーとしてのアフリカの女を再考する—2010 年代の視点から」

## 講演会・研修

坂田桐子, 看護管理者研修「看護マネジメントの基礎」, チームにおけるリーダーシップとメンバーシップ (広島県看護協会, 広島県看護協会, 2019/8/2)



- 坂田桐子, 看護管理者研修「看護マネジメントの基礎」, チームにおけるリーダーシップとメンバーシップ (広島県看護協会, 広島県民文化センターふくやま, 2019/10/30)
- 坂田桐子, 2019年度ファーストレベル教育課程, リーダーシップとメンバーシップ (広島大学病院看護実践教育研修センター, 広島大学病院 臨床管理棟 3階 大会議室, 2019/9/7)
- 坂田桐子, 副看護師長新任研修会, リーダーシップ (独立行政法人国立病院機構中国四国グループ, 2019/6/13)
- 坂田桐子, 看護師長新任研修会, リーダーシップ (独立行政法人国立病院機構中国四国グループ, 2019/7/4)
- 恒松直美, 平成 31 年度尾三地区公民館連合会研修会, 「異文化との接触に備えて: グローバル社会と地域」 Cross Cultural Understanding Seminar, 「公民館活動と国際交流」 (三原市教育委員会生涯学習課, 三原市本郷生涯学習センター, 2019/12/16)
- 恒松直美, 放送大学 授業, 「グローバル社会・大学・地域」 授業 (放送大学, 放送大学 広島学習センター, 2019 年 4 月 16 日・26 日)
- 恒松直美, 日彰館高等学校「おもてなしプラン」行事における「おもてなし国際交流会」, 日彰館高校「おもてなし国際交流会」 (日彰館高等学校, 広島県立日彰館高等学校, 2019/11/9)
- 恒松直美, International Symposium “Inclusive Leadership Development and Transformative Collaboration in Culturally Diverse Environment” 「多文化環境におけるリーダーシップ育成と変革的協同」, ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点公開研究セミナー, (恒松直美 / Dr.Helen Fagan (University of Nebraska, USA), 広島大学, 2019 年 7 月 16・17 日)
- 恒松直美, International Symposium “Inclusive Leadership Development and Transformative Collaboration in Culturally Diverse Environment” 「多文化環境におけるリーダーシップ育成と変革的協同」, ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点公開研究セミナー, Actual Cases: 1) “Power of Multinational Student Interns for International Promotion of Local Tourism” 「地域の国際観光振興に生かす多国籍留 学生インターンの力」 (恒松直美 / Dr.Helen Fagan (University of Nebraska, USA), 広島大学, 2019/7/16)
- 恒松直美, International Symposium “Inclusive Leadership Development and Transformative Collaboration in Culturally Diverse Environment” 「多文化環境におけるリーダーシップ育成と変革的協同」, ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点公開研究セミナー, Actual Cases: 2) “Educational Intervention for Intercultural Encounter: Cooperative Experiential Learning of Multinational Students in Study Abroad in Japan” 「異文化間の出会いの場と教育的介入: 日本留学における多国籍留学生の体験的協同学習」 (恒松直美 / Dr.Helen Fagan (University of Nebraska, USA), 広島大学, 2019/7/17)
- 恒松直美, 第 2 回多文化共生研究会, 「地域の国際観光振興に生かす多国籍留 学生インターンの力」 (ダイバーシティ&インクルージョン科学の構築と実践のための研究拠点, ダイバーシティ研究センター, 2019/5/30)
- 恒松直美, 広島大学公開講座, 「グローバル社会・大学・地域を結ぶ ～異文化との接触に備えて～」 (広島大学, 広島大学, 2019 年 7 月 3 日・10 日)
- 恒松直美, HUSA Program 2018-2019, 「グローバル・リーダーシッププロジェクト～留学生の自助支援～適応と再適応」最終発表会, (HUSA プログラム, 広島大学, 2019/7/10)

恒松直美, HUSA Program 2018-2019, 「グローバル・リーダーシッププロジェクト～留学生の自助支援～適応と再適応」第2回中間発表会, (HUSA プログラム, 広島大学, 2019/4/24)

恒松直美, 広島大学附属高校スーパーサイエンスハイスクール英語合宿, “Intercultural Communication” seminar 「異文化間コミュニケーションセミナー」 (広島大学附属高等学校, 広島大学, 2020/2/1)

河本尚枝, 第9回中国残留日本人の体験を聞く会, 広島から満州へ移民した人々の歴史 (中国残留日本人の体験を聞く会実行委員会, ひとまちプラザ, 2019/6/15)

河本尚枝, 中国・四国ブロック中国帰国者支援機関連絡会議, 中国帰国者の歴史背景と現状 (中国・四国地区中国帰国者支援・交流センター, 広島県社会福祉会館, 2019/7/5)

河本尚枝, 第1回日本語ボランティア講習会, 日本語で国際交流! ( (公財) 東広島市教育文化振興事業団, 東広島市市民文化センター, 2019/7/14)

河本尚枝, ヒロシマ連続講座 第83回 in 広島 94歳が語る満蒙開拓青少年義勇軍、シベリア抑留、そしてヒロシマ, 満蒙開拓と青少年義勇軍 (ヒロシマ連続講座, 広島大学東千田キャンパス, 2019/8/8)

河本尚枝, 第10回中国残留日本人の体験を聞く会, 広島から満州へ移民した人々の歴史 (中国残留日本人の体験を聞く会実行委員会, 山崎本社みんなのあいプラザ, 2019/11/30)

河本尚枝, 多文化共生シンポジウム「広島県の医療通訳の拡充に向けて安芸高田市の医療現場から」, 医療通訳への期待と課題-医療サービス・言語・コスト (広島県立大学庄原地域連携センター, 安芸高田市民文化センター大ホール, 2020/2/12)

安達菜穂子, 上廣倫理財団研究助成発表会, 差別の正当化-抑制モデルに基づくホモフォビア表出過程の検討 (上廣倫理財団, 公益財団法人上廣倫理財団 UF ホール, 2019/12/14)

山本幹雄, 平成31年発達障害者支援基礎研修, パネルディスカッション: 学生生活や職場での困難への支援について (社会福祉法人つつじ, 三原リージョンプラザ, 2019/6/4)

山本幹雄, 地域ケア会議, 身体等に障害のある人の多様性とアクセシビリティ (県立身体障害者更生相談所, 呉市役所, 2020/2/10)

山本幹雄, FD研修, 合理的配慮のコモディティ化とリソース・シェアリング (高松大学・高松短期大学, 高松大学, 2020/2/13)

山本幹雄, 令和元年度障害学生支援実務者育成研修会 基礎編 (関東), 障害学生支援に関する基本的な考え方 (JASSO, 国立オリンピック記念青少年総合センター, 2019/8/22)

山本幹雄, 令和元年度障害学生支援実務者育成研修会 基礎編 (関西), 障害学生支援に関する基本的な考え方 (JASSO, 兵庫国際交流会館, 2019/8/29)

山本幹雄, 令和元年度障害学生支援実務者育成研修会 応用編 (関東), 障害学生支援のための学内ネットワーク構築に関する基本的な考え方とマネジメント (JASSO, 国立オリンピック記念青少年総合センター, 2019/9/17)

坂本晶子, 令和元年度障害学生支援実務者育成研修会 基礎編 (関東), 支援者の育成とICT活用 (JASSO, 国立オリンピック記念青少年総合センター, 2019/8/23)

坂本晶子, 令和元年度障害学生支援実務者育成研修会 基礎編 (関西), 支援者の育成とICT活用 (JASSO, 兵庫国際交流会館, 2019/8/30)

櫻井里穂 (2020) 「増え続ける外国籍児童生徒に関する諸問題 - 何が課題なのか - 広島事例より」 CEDER 広島第一回研究会。主催ダイバーシティ研究センター、共催 D&I 拠点 2020年3月10日、於、広島大学

櫻井里穂 (2019). 「メキシコの学校と子どもたちの自尊感情」主催・発表 メキシコ国際理解セミナー「メキシコってどんな国？」於、広島大学 (2019年12月6日)

櫻井里穂 (2019) 「特別の教育課程から見えてくる多文化共生の視点：公立の学校の事例より—今、広島の学校で起きていること—」第4回多文化共生研究会 2019年10月24日、於、広島県立大学

## 外部資金

基盤研究 (C) 日本留学での適応と帰国後の再適応が多国籍留学生に与える影響のホリスティックな研究、2017年4月1日～2021年3月末日、¥2,080,000、恒松直美 (研究代表者)

基盤研究 (C) 日系高齢マイノリティの「その人らしい暮らし」を支援するための基礎研究、2018年～2022年、¥3,900,000、河本尚枝 (研究代表者)

基盤研究 (C) 再生産労働の国際分業における男性移住者の社会関係とアイデンティティの再構築、2017年4月1日～2021年3月末日 (延長予定)、¥4,420,000、長坂格 (研究代表者)

平成30年度上廣倫理財団研究助成、差別の正当化—抑制モデルに基づくホモフォビア表出過程の検討、2019年2月11日～2020年2月1日、¥301,000、安達菜穂子 (研究代表者)

基盤研究 (C) AICT ユビキタス支援による合理的配慮のコモディティ化研究 2017.4.1～2020.3.31、¥3,510 千円、山本幹雄 (研究代表者)

基盤研究 (C) 生理用品の受容によるケガレ観の変容に関する文化人類学的研究 2017.4.1～2020.3.31、¥4,290 千円、新本万里子 (研究代表者)

基盤研究 (B) グローバルなアジェンダとなった月経のローカルな状況の比較研究 2017.4.1～2020.3.31、新本万里子 (研究分担者)

基盤研究 (B) パプアニューギニア無医地区におけるヘルスカバレッジ向上に資する医療サービス、2019.4.1～2022.3.31、新本万里子 (研究分担者)

基盤研究 (C) ジェンダー格差の維持にかかわる心理学的基盤についての検討、2018–2020、森永康子

若手研究 (B) 多様性の存在する社会における話し合いの共通基盤の形成過程に関する検討、2017年4月1日～2020年3月末日、¥3,100,000、北梶陽子

公益財団法人科学技術振興融合財団、2019年度調査研究助成、2020年3月1日～2022年3月末日、¥660,000、北梶陽子

基盤研究 (C) アフリカの小説にみる女同士の親密性、2018–2022、大池真知子

## その他

北梶陽子 日本シミュレーション&ゲーミング学会 2019年度奨励賞

## 研究パートナー組織募集

当センターでは、女性の活躍促進や男女共同参画、多文化共生等々の取組を阻害する要因を解明するとともに、取組の効果を向上させる方策を考案し、ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進のための実証研究に取り組んでいます。このような研究を進めるためには、企業をはじめとする民間団体や地方公共団体等の方々の協力が欠かせません。

ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進に関心をお持ちで、共に研究を進めていただける組織の方々を募集しております。

広島大学 ダイバーシティ研究センター  
Hiroshima University  
Research Center for Diversity and Inclusion

739-8524

広島県東広島市鏡山1-1-1

Tel:+81 82 424 4559

email: [diversity-center@hiroshima-u.ac.jp](mailto:diversity-center@hiroshima-u.ac.jp)

Web: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/diversity>